

明治大学 2019 年度【春期】 国際化サポート海外留学奨励金 留学報告書

| | |
|------|---------------|
| 研修先名 | ベトナム・インターンシップ |
| 所 属 | 商学部 商学科 2 年 |

留学先での学習(実習)内容およびご自身の学習成果について記載してください。(250～300 字程度)

実習では店舗内の新しい POP の作成に取り組んだ。その過程のなかで最も苦労したことは、ベトナム人マネージャーたちとのコミュニケーションだった。初めころは彼らのベトナム訛りの英語が聞き取れず、こちらの英語もなかなか伝わらず、彼らとのコミュニケーションに不安やストレスを感じていた。だが、仕事を進めるために彼らの協力は不可欠であったため、諦めずに彼らに話しかけ続けた。彼らから話しかけてくれたときはこちらからも質問をするなどして会話を続ける努力をしていた。その結果、ベトナム人マネージャーの方から遊びや食事に誘ってくれるようになったり、仕事後に SNS でメッセージを送りあったりするまで信頼関係を築くことができた。

課外活動等、授業以外の時間にどのような経験を得ることができたか記載してください。(250～300 字程度)

ベトナムで働く日本人ビジネスパーソンとの座談会では、自身がこれからどのようなキャリアを歩んでいきたいか真剣に考えるきっかけとなった。ビジネスパーソンの方々は同じようにベトナムで働いていてもそれぞれ歩んできたキャリアが全く違って、海外で働くと言っても様々な方法があることに気がついた。ベトナム人大学生との交流では、それぞれが仕事に求めるものを共有した。私は仕事上での人間関係を気にする一方で、彼らは自身のスキルを仕事でどのように生かすかを重視しており、お互いの中にある価値観の違いを感じられた。またベトナム人学生から漢字の読み方について何度も尋ねられ、語学学習への意識や学習方法の違いを感じ、自分は彼らのように外国語習得に積極的になれていたかを振り返るきっかけとなった。

滞在先・現地での生活に関する経験・感想について記載してください。(250～300 字程度)

滞在開始当初、タクシーでぼったくりの被害にあい、ベトナム人を信じられなくなった時期があった。だが、実習先のベトナム人の方々は非常に優しく、何度も私のことを助けてくれた。それからベトナム人やベトナムという国への印象も変化していき、将来はベトナムで働きたいと思うようになった。また滞在中、ベトナムには多くの日系企業が進出しており、日本人街や多くの日本食レストランがあることに気がついた。旅行先で出会ったタクシーの運転手も日本語を少し話すことができ、日本の曲もよく聞いているようで、ベトナムで日本の文化が受け入れられ、親しまれていると感じて嬉しかった。

今後の展望・目標について、留学前と後での変化も含め記載してください。(250～300 字程度)

留学前、将来は海外と関わる仕事がしたいと考えていたが、具体的にどのように海外と関わりを持ちたいのか考えられていなかった。だが、実習やベトナムで働く方々のお話を通して、具体的に働き方をイメージできるようになり、駐在員として実際に海外に行き日本のサービスや商品を世界に広めたいという夢を持つことができた。また留学前、海外で働くということは海外市場を相手にすることしか捉えていなかった。だが実習を通して、海外で働くということは、現地の人と共に働くことでもあると学んだ。海外で働きたいという夢を叶えるため、これからの大学生活のなかで、留学生をはじめ、外国人とひとつの目標に向かって共に頑張る経験を積んでいきたい。

写真貼付 (1 枚)

※研修生で撮影した写真を 1 枚 (1MB 以内) ご提供ください。撮影場所・写真の説明も記載してください。

休日にホイアンに旅行に行ったときのものです。



【注意事項】提出された留学報告書は、次年度以降の短期海外研修の募集および未来サポーター募金事業の広報を目的に、原則として当原稿をそのまま外部に公開いたします (学生番号、性別、生年月日、連絡先は公開しません)。

【写真提供の注意事項】※ご提供いただいた写真は、大学の広報誌やウェブサイト、募集説明会の際利用するパワーポイント等、様々な媒体で広く広報に活用させていただく可能性があります。複数の方が写っている写真をご提供いただく場合には、写真撮影の際にその写真に写る方に本学への写真提供について許可を得ていただいたものをご提供ください。